

鈴木先生を送る

二宮敏行(物理)

鈴木秀次先生は、本年3月停年退官されることになりました。髪の毛はうすくても、まだまだお若い姿を見ると、還暦というはるか昔につくられた習慣が今に生きているのが奇妙に感じられます。

鈴木先生は、昭和20年北海道帝國大学を御卒業になり、東北大学金属材料研究所、日本原子力研究所と南下して、昭和38年本学に移って来られました。先生は、我が国における格子欠陥研究の草分けのお一人で、その独創性豊かな御研究のゆえに、常に、世界のこの方面の研究に指導的立場を果されました。転位と不純物原子の化学的相互作用(鈴木効果)の提唱、固溶体硬化の解明、転位

のパイエルス力に対する格子構造の役割の発見などは世界的に良く知られ、これらの貢献に対し、松永賞、日本金属学会功績賞を受賞されました。また、低温センター長、JJAP(応用物理学英文誌)編集委員長として、学内外で活躍されました。

開拓的な研究の中では、楽しい思い出とともに、いろいろ悩むことも多かったと思いますが、先生の最大の悩みは鈴木秀次という名前にあったのではないのでしょうか。H. Suzuki という宛書きは、人を特定するのにあまり役に立ちません。理学部だけでも、鈴木尚名誉教授、鈴木秀夫教授、鈴木

秀穂助教授がおられます。identification については、外国人も大いに悩んだようで、先生にあるアメリカ人がつけた名前は Happy Suzuki であったと伺っております。あだ名の由来は、鈴木先生を直接御存知の方は直ちにお分りと思いますが、

いつもここにこととしておられることにあるようですが、もちろん、敬愛の念の表われでしょう。

先生は、今も、固体ヘリウム中の格子欠陥などの新しい問題に、情熱的に取り組んでおられます。Happy Suzuki でられることをお祈りします。